

開拓傳

正院
印

何之通

正院印

明治六年三月

第四卷

開拓傳

佛朗西ワルナリウール

フロスヘルパーク

亞米利加學塾

マニホルトヒエーツー

北海道札幌下学校
生徒の有志として開拓を志すに
て、同族を招き、同族を招き、
同族を招き、同族を招き、
同族を招き、同族を招き、

開拓傳

生後階級之入免澄學年等海學
七師之有向之名學以區國地之有
考一月之六月三十日之六月間書使
言敬重之用以以產入供及以原旨也
昭治六年一月十日 開拓使官 關西府

正院

伺之通

正院
之印

明治六年一月十日

中判友

正院

正院

正院

道海修築之費之勢之般海
道海國函彼地方之新道建築
掛口不市街之候之修築之馬通行
難候之市中、修築之付之之年難後
以民力衰弱之形候之一時之費之修
築仕而年八分通、成功之也、河方志
志之之自費之河内大、道海修築之